内海ITU事務総局長
ジュネーブ便り

（2004年2月）

◎内海事務総局長から

情報社会サミット第2フェーズの動きが始まりました。また多くの困難を克服しなければならないと思うと身震いがします。

このサミットを通じて、狭い所掌範囲のITUでは知り得ない国際社会のメカニズムや行動原理について、実にさまざまなことを学びました。一言でいうならば、一般の善良な日本国民が想像もできないような悪人ばかりが、国際社会では、平均的な住民だということです。

戦前に、「国際社会は複雑怪奇なり」と言って辞職した総理大臣がいました。「国際社会は、魑魅魍魎（ちみもうりょう）のすみかなり」とは言わなかった日本人の謙虚さを、われわれはいつまで保持できるのでしょうか？

現実との乖離（ジュネーブ郊外の春）

◎3月の事務総局長の主な動向

3月2～3日　チュニジアWSISブレインストーミング会合（チュニス）

主要国政府、国際機関、民間セクター、市民団体らがチュニスに集まり、昨年のWSISジュネーブフェーズで採択された基本宣言および行動計画の実施、2005年11月のWSISチュニジアフェーズで期待される成果、WSISチュニジアフェーズに向けた準備プロセスをテーマにして、ブレインストーミング会合を行いました。同会合は、ホスト国であるチュニジア政府のイニシアティブで開催され、WSIS開催国としての意気込みと開催能力を示す良い機会となりました。

ジュネーブ行動計画の実施については、各国際機関や関係諸国のそれぞれの取り組みを把握し調整する何らかのメカニズムが必要だろうと認識されました。また、チュニジアフェーズに向けてテーマ別準備会合や、地域準備会合が開催されますが、これらの会合の主催者、出席者、テーマなどに関するガイドラインを設定すべきと認識されました。その他の項目についても意見交換しましたが、意見を集約するより、むしろ第2フェーズの準備を進めていく上で整理すべき事項を明確にするように議論が進みました。

今回の会合は、市民団体が、政府や国際機関等と同じテーブルに座り、意見を自由に述べられたことで、市民団体からの評価も良かったように感じています。また、チュニジア政府が、会合の準備、運営などロジスティック面で配慮し、かつ十分なホスピタリティを示したことで、各国のチュニジア政府に対する評価も上がったのではないかと思います。

3月19日　第1回WSIS暫定政府ビューロー会合（ITU、ジュネーブ）

WSIS暫定政府ビューローのメンバー国選定について、各5地域内でのコンサルテーションが1カ月以上も続けられてきましたが、各地域6カ国を選定することでようやく合意に至り、その全30カ国がそろった第1回の暫定政府ビューロー会合を開催しました。

各地域内のコンサルテーションでは、各国がそれぞれのプレゼンスを示そうと思惑が絡み、調整に時間を要したようです。特に、アジア地域は言語、文化、地理的に多様性があり、また、先進国と開発途上国も混在していて、6カ国のメンバーを選定することは大変難しかったと思います。そのようななか、日本もビューローメンバーに選出されました。

今後、暫定政府ビューローでは、WSIS準備会合のアジェンダ、地域準備会合やテーマ別会合のガイドラインなどを検討することとなっており、WSISチュニジアフェーズに向けた準備が加速することを期待しています。

3月30日　ITUテレコムボード会合（ITU、ジュネーブ）

ITUは、最新の情報通信技術に関して世界の事業者やメーカーによる展示会と、世界のビジネスリーダーや政府首脳らが今後のテレコムの動向を議論するフォーラムとで構成するITUテレコムを開催しています。昨年10月には、ITUワールドテレコムをジュネーブで開催して、多くの関係者に参加いただき好評をいただきました。

このITUテレコムの構成内容や開催場所などを含めた運営について、ITU事務総局長に助言するITUテレコムボードを開催しました。このボードには、展示企業の代表やITU加盟国の有力者の方々に参加してもらっています。

今回のテレコムボード会合では、次回のITUワールドテレコムの開催地選定が大きな議論となりました。5つの開催候補地から、ジュネーブと香港に最終候補地が絞り込まれましたが、多くの民間セクターがアジア地域を大きなマーケットとしてとらえていることから、香港での開催を支持する意見が多数を占めました。その一方で、ITU事務局から見ると香港での開催はコスト的に負担が大きいことから、さらに中国政府と交渉した上で、開催地を最終決定するようにとの意見がまとめられました。

世界の国々の中国に対する関心の高さを実感することができました。

また、ITUテレコム事務局職員削減、コスト削減などを通して、事務局組織のスリム化と同時に職員の意識改革を進めていますが、これらに対しても、ボードメンバーから評価いただきました。